INNER FIRE

情熱とは、あなた自身の内なる炎。
一途にトレーニングに励むときも、
戦いに敗けても挫けず
何度も果敢に挑戦し続けるときも、
熱く、まばゆく燃え続ける。
熾烈な戦いのなかで、
すべての敵を焼き尽くしてしまうまで。

■ 日本リーグ唯一の公式試合球
■ 全日本実業団連盟主催大会唯一の公式試合球

32H312Y ヌエバ ¥6,825(本体価格¥6,500)
国際公認球・検定球・縫い・人工皮革・3号球
カラー（黄×黒）

32H212Y ヌエバ ¥6,615(本体価格¥6,300)
国際公認球・検定球・縫い・人工皮革・2号球
カラー（黄×黒）
(標記の価格はメーカー希望小売価格)

株式会社 モルテン　東京本社　〒130-0003 東京都墨田区横川五丁目5-7　大阪・名古屋・福岡・広島営業所・仙台・札幌・モルテンUSA・モルテンヨーロッパ・モルテンタイランド・モルテンメキシコ　www.molten.co.jp

ヤングレフェリープロジェクト（YRP）のスタートにあたり

（財）日本ハンドボール協会常務理事　**島田 房二**（審判部長）

夏の各種全国大会を前に、ハンドボール愛好者・チーム関係者そして主催者の皆さんは期待に胸を弾ませているのではないでしょうか。今年度も、審判委員会では各地域で審判講習会を開かせて頂きました。各地域とも熱心な審判員が集まり充実した講習会が開催されているとの報告を受け、選手はもちろん愛好者・運営者にも心に残る大会になることを期待しています。

今年度の審判員の目標は、**①審判に必要な身体能力の向上、②アドバンテージルールの遵守、③コート上でのレフェリーの動き方と位置取り**、の３点を強調しています。これらはハンドボールの試合がスピードアップされ、ルールもそのスピードアップに対処する必要があり、試合をよりよい状態で行うには欠かせない要素となります。全国大会に選出された審判員は、各地区からノミネートされた日本協会のトップのレフェリーですので、ルールブックの本質を実現できる力を発揮してくれるものと思っています。

今年度の審判委員会の大きな変化は、**①審判登録年齢の引き下げ、②ヤングレフェリープロジェクト（以下 YRP）のスタート**です。私が審判委員長になってから、中学生が審判を目指したいと言っている投書が何件か届いています。その時に、IHF の提唱で年齢別の大会を同年齢の審判員が管理することを最終目標に据え、審判員を育てるべく YRP がスタートするという報告があり、日本もこの主旨を踏まえ YRP のスタートの準備をしています。

審判員の登録年齢を 16 歳以上とし、14 歳から講習会や実技の講習を受け、指導者の下で練習を積み、優秀者に日本協会仮公認ワッペン（グリーンワッペンの予定）を与えます。そして各地区の小学生大会や学年別大会・中学生大会・県大会等で実績を積み、16 歳になった時点で最優秀者に B 級ライセンスを発行することを考えています。

さらに AHF では、大陸ユース・ジュニアの大会は 28 歳以下とし、その大会の優秀レフェリーに大陸レフェリーのバッジを与える方針をたてています。

このことは、国内で優秀な若手レフェリーを日本協会がアジア連盟に知らせていかなければ、将来日本から IHF レフェリーが育たないという危惧がありますので、この計画に尽力を注ぎ成功に繋げたいのです。大切なことは、ハンドボール指導者の審判育成に関する考え方の柔軟性です。

先日、「若い子にレフェリーをさせるということは、選手として見込みがないと宣言するようで非常に難しい」との意見もありました。良い選手を育てるには良い審判を育てることが必要で、世界の審判界も世界選手権に出ていた選手が IHF レフェリーとして活躍をしています。一流選手が審判技術を習得しながら活躍し、年齢的に選手として活躍できなくなったときに、直ぐに審判で世界に飛び出せるシステムを作りたいと考えています。

第2回
男子アジアユース（U-19）選手権
兼2007年世界選手権アジア予選

経験と国際試合の気迫、迫力が課題に

団長　木野　実　（財）日本ハンドボール協会常務理事

6月25日（日）から30日（金）まで、イラン・テヘランで開催された「第2回男子アジアユース（U-19）選手権（兼2007年世界選手権アジア予選）」に団長として参加した。

参加国は日本、韓国、イラン、カタールの4カ国であり、本大会は、2007年世界ユース選手権（バーレーン開催）への出場権（アジア枠：上位2チーム）獲得を目指し、1回戦総当りのリーグ戦形式で行われた。

予選リーグ初戦のイラン戦では、日本は残り3分のところで3点差に詰め寄り善戦だったが、結果的には自分たちのミスからことごとく相手に得点されてしまった。このあたりが国際試合の怖いところであり、イランの高さと腕の長さに日本は防御、攻撃とも苦しめられた。またイランのカットインプレーは力強く、速攻は速いうえに、一歩の出足は大変鋭かった。

二戦目の韓国戦は前半20分まで4－6と接戦し、GK久保がノーマークシュートを防ぎキーピングが光っていたが、イラン戦同様詰め寄るところの肝心な場面でチャージ等のミスが重なりなかなか点差が詰まらなかった。しかし後半15分、一時かけ離れかけていた点差を3点差まで追い詰めたが、ロング、サイド、ポストと韓国の多彩な攻撃と早いパス回しについていけず6点差で敗退した。

最終のカタール戦は、今迄の2試合の反省を徹底してチーム内で話し合い修正をおこなった。そして最終戦勝利の意気込みで挑んだが、それ以上にカタールの気迫と迫力に押されてしまった。スタートからカタールの激しいデフェンスでバシバシと強く当たられ、30分間何も出来ず仕舞いであった。日本は後半気持ちの切替えと気迫が前面に出るようになり反撃開始、攻守全てに積極性が出て24分には一気に3点差まで追い上げた。ここからが勝負だったが、ノーマークのパスミス等が連続し、最後までよく粘ったが逆転出来なかった。もっと後半の気迫が最初から出ていれば展開も違っていただけに惜しまれる戦いであった。

全体的には、一戦一戦末岡ヘッドコーチ、北林コーチの指導力もありチーム・個人とも成長の跡が見られた。又チームの規律もとれ良かったし、チーム内の意思統一も出来つつあった。ただリードオフマンの主将砂川が最終戦には出場したが、怪我のため2戦欠場したのはチームには誤算であった。このチームは個人・チーム共高い能力があり、又適応力は素晴らしいものがあった。攻撃はロング、サイド、カットインも出来ていてバラエティがあり、防御は2通りの体型を持って勝負してきた。ただ外国人の強引なカットインには踏ん張りがきかず押し込まれるケースがあったし、エリア沿いに守っているとロングと7mスローを取られることもしばしばで、1対1に強くなる事が必要であると痛感した。もう一つの課題は日本ではあまりとられないチャージングとパスミス

を如何に減らすかである。外国人の手の長さ、当たりの激しさとプレスデフェンスで攻撃の時に腰が引けてしまった面もあった。そしてボール回しの早さとパスの強さ（緩急）がより求められる。国内での感覚でやっていると通用しない。これらも経験を重ねることにより、能力の高いこのチームの選手達は変わってくると確信した。

個々の個人技もあり一戦一戦の成長と適応力を考えると、経験と国際試合の気迫、迫力が常に発揮できるようになれば大変に楽しみであり、期待をしたい。

在イラン大使館をヘッドコーチ以下スタッフ5人で表敬訪問した。イラン・堂道秀明大使に面会でき、大使館からも2度会場まで応援に駆け付けてくださり大きな勇気を戴きました。最後に、日本GK久保選手が大会ベスト7に選ばれたのはうれしかったし本当によく頑張ってゴールを守ってくれました。

終わりになりますが、ご支援いただきました関係各位並びに所属の学校関係の皆様方に御礼申し上げます。

試合結果

◆*6月25日（日）*

日　本　30 (16-21, 14-16) 37　イラン

【戦評】前半立ち上がり、日本の攻撃ミスからイランが速攻で先制点を取る。日本もイランの打点の高いロングシュートに苦しみながらも6番仁平のミドルや1対1で得点を重ね、11分過ぎまで5対7の接戦であった。しかしその後、日本の攻撃ミスによる逆速攻などで4連取され、イランのペースで試合が進んだ。日本のパワープレーのチャンスに、3番光武、11番山下のサイドシュート、15番信太のカットインなどで3連取に反撃に出るも、テクニカルミスからの逆速攻が出てしまい、前半は16対21の5点差で終わった。

後半、日本も6：0と5：1の2種類のディフェンスを使い分け、イランのロングシュートに対しプレッシャーをかけ、オフェンスでも横のゆさぶりが機能し、ほぼ互角にゲームを進める。GK久保のファインセーブの間に6番仁平、7番小郷、15番信太の1対1などで得点を重ねると同時に、パワープレーのチャンスを作り、残り5分で3点差まで追い上げる。しかし最後は日本のシュートミスの間にイランのロングシュートが決まり、30対37の7点差でゲームセットとなった。

〈得点者〉仁平9，信太6，小室・小郷・植垣3，
光武・山下2，坂・多和田1

◆*6月26日（月）*

カタール　33 (15-15, 18-15) 30　韓　国

◆*6月27日（火）*

日　本　23 (9-14, 14-15) 29　韓　国

【戦評】日本・韓国ともに初戦を落とした状態での対戦となった。日本は一線ディフェンスからのアタックが機能し、韓国の攻撃にプレッシャーをかけた。しかしポストプレーやフリースローからのミドルなどで韓国に得点を許し、苦しい立ち上がりとなった。日本も13番植垣の速攻、6番仁平のミドルなどで反撃に出て、15分過ぎまで4対6の2点差でついていた。その後、日本のシュートミスや味方の退場などで徐々に点差が開いていった。GK久保の堅実なキーピングもあり流れが変わったところもあったが、9対14の5点差で前半を終えた。

後半、韓国の積極的な攻撃に押され、一時8点差に広がったが、粘り強いディフェンスからの速攻とパワープレーのチャンスに、3番光武、11番山下、15番信太などで5連取し、一気に追い上げた。しかしここから日本がミスし、その間に韓国のロングシュート、サイドシュートが効果的に決まり、終盤9番多和田のサイドシュートや速攻で加点するも29対23の6点差でゲームセットとなった。

〈得点者〉信太6，小室4，多和田3，
山下・光武・仁平・植垣2，小郷・上原1

◆*6月28日（水）*

イラン　40－38　カタール

◆*6月30日（金）*

イラン　38（20-18, 18-18）36　韓　国

日　本　26（11-18, 15-12）30　カタール

【戦評】必ず1勝するという気持ちでチーム一丸となって挑んだ。しかし立ち上がり、強い1対1やロングシュートに対応できず、セットでの失点が多く、10分経過したところで4対7と、先行を許す展開となった。日本も6番仁平のロング、15番信太のステップシュートなどで得点するも、カタールのパワフルな攻撃に対し引いてしまい加点されていった。途中で怪我から復帰した10番砂川をセンターに置き、攻撃リズムが出て、11番山下をディフェンスに入れることで守りのバランスもよくなってきたが、11対18の7点差で前半を終えた。

後半、ディフェンスが修正され、4番小室、5番坂がカタールの攻撃を前で止め、後半GKに入った12番玉城がロングシュートをよく止め速攻の展開でゲームを運んでいった。3番光武のサイドシュート、8番上原、9番多和田の速攻などで追い上げ、残り4分で3点差まで詰め寄った。しかしここから明らかな速攻のチャンスでのミスを連続し、追いつけない間にカタールに加点され、26対30でゲームセットとなった。

〈得点者〉仁平6, 上原・信太4, 光武3,
多和田・植垣2, 小室・坂・小郷・砂川・山下1

選手団名簿

役員	氏名	所属
団長	木野　実	（財）日本ハンドボール協会
ヘッドコーチ	末岡　政広	（財）日本ハンドボール協会
コーチ	北林　健治	（財）日本ハンドボール協会
ドクター	有田　忍	小波瀬病院
トレーナー	河野　公昭	やまが整形外科

氏名	ﾎﾟｼﾞｼｮﾝ	身長	所属	出身中学･高校
久保　侑生	GK	186	大分国際情報高	明野中
濱田　竜士	CP	188	大同工業大	高知東工業高
砂川　慶成	CP	173	興南高	神森中
多和田　裕介	CP	182	岡崎城西高	八幡中
光武　純	CP	176	法政第二高	西中原中
小室　大地	CP	188	藤代紫水高	玉造中
坂　洋明	CP	185	藤代紫水高	水海道西中
上原　健治	CP	177	興南高	神森中
植垣　貴志	CP	182	大体大浪商高	大体大付属中
東江　大輝	CP	177	那覇西高	神森中
信太　弘樹	CP	184	藤代紫水高	麻生中
糟谷　周穂	GK	187	瓊浦高	浜の宮中
玉城　聖也	GK	180	興南高	神森中
山下　和樹	CP	171	小林工業高	三松中
仁平　昌利	CP	187	法政第二高	鹿骨中
小郷　龍哉	CP	176	上宮高	大淀中

最終順位

1位　イラン（3勝）
2位　カタール（2勝1敗）
3位　韓　国（1勝2敗）
4位　日　本（3敗）

星取表

		イラン	カタール	韓　国	日　本	数	勝-分-敗	得点	失点	差	点
1位	イラン		40○38	38○36	37○30	3	3－0－0	115	104	11	6
2位	カタール	38●40		33○30	30○26	3	2－0－1	101	96	5	4
3位	韓　国	36●38	30●33		29○23	3	1－0－2	95	94	1	2
4位	日　本	30●37	26●30	23●29		3	0－0－3	79	96	-17	0

報告

世界女性スポーツ会議

開催日：2006年5月11日（木）～14日（日）
場　所：ホテル日航熊本・阿蘇、くまもと県民交流館パレア

（財）日本ハンドボール協会女性委員会

女性の感受性の豊かさや、おおらかな心を生かし、女性スポーツをここでもう一度見直すきっかけにして欲しい。そしてスポーツは個人のためでなく、仲間を広げていくためにあるという一面にも気付いて欲しい。そのためにも一つ一つ、たとえ小さくても女性とスポーツに関わる行動と変化の波を起こし、その失敗と成功から価値あるものを、そして教訓を学び取ってさらに質を向上させていかなければならない。世界の女性達からそのようなメッセージを与えられた4日間でした。

1．世界女性スポーツ会議について

この会議は1994年から4年ごとに開かれており、これまで各国政府・行政機関、オリンピック委員会関係者、競技連盟関係者、スポーツ指導者が参加しています。女性とスポーツをめぐる課題に取り組むとともに、世界における男女共同参画社会の実現を目的としています。

過去の会議、今後の会議予定は下記の通り。

■1994年　第1回ブライトン（イギリス）
参加国83、参加者数282名
■1998年　第2回ウインドホーク（ナミビア）
参加国74、参加者数400名
■2002年　第3回モントリオール（カナダ）
参加国97、参加者数550名
■2006年　第4回熊本（日本）
参加国約100、参加者数約700名
■2010年　第5回シドニー（オーストラリア）

2．会議プログラム

◆5月11日（木）
開会セレモニー
基調講演「男女の固定的な役割分担を超えて」
カロリン・ハナン氏
歓迎レセプション

◆5月12日（金）
基調講演「変化への参加」リデイア・ラ・リビエール氏
分科会
1「新しいメディアにおける女性スポーツのマーケティング」
2「発展途上国における女性のエンパワーメント」
3「多様性のマネジメント」
4「スポーツにおける女性の倫理的問題」
5「高齢者の健康とエクササイズ」
6「熊本の女性とスポーツ文化」

◆5月13日（土）
全体会「スポーツ文化へ変化をもたらす」
分科会
7「平和と発展のためのスポーツ」
8「HIV-AIDSに関するスポーツ界の取り組み」
9「スポーツにおけるリーダーシップ」
10「セクシャルハラスメントと暴力から開放されるスポーツ文化の創造」
11「学校体育とスポーツ文化」
12「ちょっと良くしよう熊本」
熊本城レセプション

◆5月14日（日）
全体会「スポーツ文化へ変化をもたらす」
閉会セレモニー

各国のスポーツを取り巻く環境の現状について情報交換できたこと、それぞれの国および団体および個人が協働しながら何ができるのかを顔を合わせて直接討論できたことなど、大変いい刺激を受けました。また、「どこからスタートしていいか分からない」とイスラム圏の女性の発言、「内紛が起こってから何かしようとしてもとても難しい」と発言された内紛地域で生活経験のある女性の切実な言葉を生で聞くことができたことも有意義でした。

基調講演、そして分科会はどれも情熱的で迫力があり、日を追うごとに参加者の志が1つに向かっていくことが感じられ、

その場にいて高揚感を覚えました。関わるすべての人々の心温まる笑顔だけでなく、登壇者と参加者に壁がなく、フランクな空気を作り上げてくださったこともその理由のひとつだと思います。

3．会議テーマ「変化への参加」

「変化への参加」というテーマは誰でも男女共同参画社会という変化の波に積極的に関わってほしいというメッセージが込められています。それぞれのワークショップは対話方式で行われ、意見交換や、今後4年間に必要な変化について実現のための提案が為されました。

最後に、「協働／私たちはスポーツを通して男女共同参画社会の実現のため、世界のスポーツ界に影響を持つ関係機関および個人が密接な協働を目指すネットワークを築き、今後4年間（2006 − 2010）熊本会議で生まれた積極的な『変化への参加』というビジョンを確実に推進します」という熊本協働宣言で会議は終了しました。

4．まとめ

この会議のテーマである「変化への参加」に向け、ハンドボール協会として推進していくためにはどうしたらよいか？

まずは自分達の競技団体の現状を把握し情報を発信することにあるとあらためて感じました。参加各国の皆さんは自国の実情や克服すべき課題をきちんと把握され、その上で現場と共に変化を起こしているように思いました。

昨年取らせていただいたアンケートは現在分析中ですが、その結果を全国に発信し、情報共有することで協働の一歩を促すことができると考えています。また、変化に向けた意見を出しやすい環境整備と出された声に耳を傾け、より具体的に課題を見出していくことも必要でしょう。

会議を通して課題克服のヒントなどを得ることができました。それも参考にしていきながら今出来ることから丁寧に一歩ずつ進め、「変化への参加」というビジョンを推進していきたいと思っております。

最後になりましたが、この会議は主催者だけでなく熊本県の各種競技団体の皆様、熊本の皆様、そして多くのボランティアの方々の支えがあって成功をなし得たと思います。特に熊本県ハンドボール協会の皆様には大変お世話になりました。その他、会議を支えてくださったすべての関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

ハンドボール協会の「女性委員会」をご存知でしょうか。ハンドボール協会創設66年目の2004年、女性の視点が内外から求められ発足しました（*1）。「女性とハンドボール競技」という観点からハンドボール全体の普及・強化・発展のために課題を取り上げ、必要に応じて性差を配慮しながら、すべての登録者一人一人に目を向けた委員会活動を行っていくことを目的としています。

＊1…1994年第1回世界女性スポーツ会議が英国ブライトンで開催された。「スポーツのあらゆる面において女性が最大限に関わることを可能にし、尊重するスポーツ文化を発展させること」を究極の目標にしたブライトン宣言が採択される。この宣言に基づき、IOCの会議で2005年までに各国NOCの意思決定機関に女性代表者の構成率を20%にする決議がなされる。日本ハンドボール協会はJOCの要請を受け協会に女性委員会を立ち上げる。

第31回 日本ハンドボールリーグ

週	月 日（曜）	開催地	会 場	男子		女子	
				時 間	組 合 せ	時 間	組 合 せ
1	9月2日（土）	愛 知	刈谷市体育館	13:00～	トヨタ自動車×豊田合成		
				15:00～	トヨタ車体×トヨタ紡織九州		
		大 阪	大阪市立住吉スポーツセンター	17:00～	大崎電気×湧永製薬	15:00～	オムロン×広島メイプルレッズ
	9月3日（日）	石 川	小松総合体育館	11:00～	北陸電力×ホンダ熊本	13:00～	北國銀行×ソニーセミコンダクタ九州
		愛 知	中村スポーツセンター	15:00～	大同特殊鋼×ホンダ	13:00～	ＨＣ名古屋×三重花菖蒲
2	9月9日（土）	石 川	金沢市総合体育館			13:00～	北國銀行×オムロン
		香 川	高松市香川総合体育館	11:00～	ホンダ×トヨタ紡織九州		
				13:00～	大同特殊鋼×北陸電力		
				15:00～	大崎電気×トヨタ自動車		
		高 知	高知県民体育館	13:00～	トヨタ車体×豊田合成		
				15:00～	ホンダ熊本×湧永製薬		
		鹿児島	ソニーセミコンダクタ九州㈱体育館			14:00～	ソニーセミコンダクタ九州×三重花菖蒲
	9月10日（日）	岡 山	総社市スポーツセンター体育館「きびじアリーナ」	13:00～	豊田合成×ホンダ熊本		
				15:00～	大同特殊鋼×トヨタ紡織九州		
		広 島	東区スポーツセンター	13:00～	湧永製薬×北陸電力	15:00～	広島メイプルレッズ×ＨＣ名古屋
		高 知	高知県民体育館	13:00～	トヨタ自動車×ホンダ		
				15:00～	大崎電気×トヨタ車体		
3	9月16日（土）	埼 玉	八潮市立鶴ヶ曽根体育館	14:00～	大崎電気×トヨタ紡織九州		
		愛 知	稲沢市総合体育館	15:30～	豊田合成×ホンダ	13:00～	三重花菖蒲×北國銀行
		広 島	湧永満之記念体育館	14:00～	湧永製薬×トヨタ自動車		
	9月17日（日）	広 島	東区スポーツセンター			14:00～	広島メイプルレッズ×ソニーセミコンダクタ九州
		熊 本	熊本県立総合体育館	16:40～	ホンダ熊本×大同特殊鋼	15:00～	オムロン×ＨＣ名古屋
	9月18日（月）	愛 知	刈谷市体育館	18:30～	トヨタ車体×北陸電力		
4	9月23日（土）	富 山	富山県総合体育センター	15:00～	ホンダ×トヨタ車体	13:00～	北國銀行×広島メイプルレッズ
		石 川	小松総合体育館	11:00～	トヨタ自動車×大同特殊鋼		
				13:00～	トヨタ紡織九州×湧永製薬		
		福 井	北陸電力福井体育館フレア	14:00～	ホンダ熊本×大崎電気		
				16:00～	豊田合成×北陸電力		
	9月24日（日）	新 潟	上越市柿崎総合体育館	14:30～	湧永製薬×トヨタ車体	12:00～	ＨＣ名古屋×ソニーセミコンダクタ九州
		福 井	北陸電力福井体育館フレア	13:00～	豊田合成×大同特殊鋼		
				15:00～	北陸電力×トヨタ紡織九州		
		奈 良	生駒市市民体育館			13:00～	三重花菖蒲×オムロン
		石 川	小松総合体育館	11:00～	大崎電気×ホンダ		
				13:00～	トヨタ自動車×ホンダ熊本		
5	9月30日（土）	岩 手	岩手県営体育館	14:00～	大崎電気×大同特殊鋼		
		福 井	北陸電力福井体育館フレア	14:00～	北陸電力×トヨタ自動車		
		三 重	鈴鹿市立体育館	14:30～	ホンダ×湧永製薬	12:00～	三重花菖蒲×広島メイプルレッズ
		福 岡	福岡市民体育館	16:00～	ホンダ熊本×トヨタ車体	14:00～	北國銀行×ＨＣ名古屋
	10月1日（日）	佐 賀	トヨタ紡織九州クレインアリーナ	14:00～	トヨタ紡織九州×豊田合成		
		鹿児島	鹿児島アリーナ			14:00～	ソニーセミコンダクタ九州×オムロン
6	10月14日（土）	愛 知	三好公園総合体育館	13:00～	トヨタ自動車×トヨタ紡織九州		
		三 重	名張市総合体育館	14:30～	ホンダ×ホンダ熊本	12:00～	三重花菖蒲×ＨＣ名古屋
		熊 本	山鹿市総合体育館			14:00～	オムロン×広島メイプルレッズ
		広 島	湧永満之記念体育館	14:00～	湧永製薬×豊田合成		
	10月15日（日）	山 梨	小瀬スポーツ公園体育館	14:00～	大崎電気×北陸電力		
		大 分	大分県立総合体育館	14:10～	大同特殊鋼×トヨタ車体	12:30～	ソニーセミコンダクタ九州×北國銀行
7	10月18日（水）	埼 玉	富士見市立市民総合体育館	18:30～	大崎電気×豊田合成		
		愛 知	豊田市体育館	18:30～	トヨタ車体×トヨタ自動車		
		三 重	本田技研健保体育館	18:00～	ホンダ×北陸電力		
		広 島	湧永満之記念体育館	18:00～	湧永製薬×大同特殊鋼		
		佐 賀	トヨタ紡織九州クレインアリーナ	18:30～	トヨタ紡織九州×ホンダ熊本		
	10月21日（土）	愛 知	稲沢市総合体育館	15:30～	豊田合成×トヨタ自動車	13:00～	ＨＣ名古屋×広島メイプルレッズ
		広 島	東区スポーツセンター	14:00～	湧永製薬×大崎電気		
		熊 本	山鹿市鹿央公民館	16:00～	ホンダ熊本×北陸電力	14:00～	オムロン×北國銀行
		鹿児島	霧島市国分体育館	15:00～	ホンダ×大同特殊鋼	13:00～	ソニーセミコンダクタ九州×三重花菖蒲
	10月22日（日）	佐 賀	トヨタ紡織九州クレインアリーナ	14:00～	トヨタ紡織九州×トヨタ車体		

レギュラーシーズン 日程表

（平成18年9月2日～平成19年3月4日）

8	10月28日（土）	福井	福井県営体育館	15:00～	北陸電力×大同特殊鋼		
		愛知	ブラザー工業体育館	15:00～	トヨタ自動車×大崎電気	13:00～	ＨＣ名古屋×オムロン
			豊田合成㈱健康管理センター	14:00～	豊田合成×トヨタ車体		
		三重	鈴鹿市立体育館			14:00～	三重花菖蒲×北國銀行
		広島	中区スポーツセンター	13:00～	湧永製薬×ホンダ熊本	15:00～	広島メイプルレッズ×ソニーセミコンダクタ九州
	10月29日（日）	佐賀	トヨタ紡織九州クレインアリーナ	14:00～	トヨタ紡織九州×ホンダ		
9	11月4日（土）	佐賀	神埼中央公園体育館	13:00～	北陸電力×湧永製薬		
				15:00～	トヨタ紡織九州×大同特殊鋼		
		長崎	佐世保市体育文化館	13:00～	ホンダ×トヨタ自動車		
				15:00～	トヨタ車体×大崎電気		
		熊本	山鹿市鹿本体育館	16:00～	ホンダ熊本×豊田合成	14:00～	オムロン×三重花菖蒲
	11月5日（日）	福岡	久留米総合スポーツセンター体育館	13:00～	北陸電力×トヨタ車体		
				15:00～	トヨタ自動車×湧永製薬		
		佐賀	神埼中央公園体育館	13:00～	ホンダ×豊田合成		
				15:00～	トヨタ紡織九州×大崎電気		
		熊本	山鹿市総合体育館	14:00～	大同特殊鋼×ホンダ熊本	15:40～	オムロン×ソニーセミコンダクタ九州
10	1月13日（土）	広島	中区スポーツセンター			14:00～	広島メイプルレッズ×三重花菖蒲
	1月14日（日）	石川	小松総合体育館			13:00～	北國銀行×ＨＣ名古屋
11	1月20日（土）	広島	中区スポーツセンター			14:00～	広島メイプルレッズ×オムロン
	1月21日（日）	愛知	ブラザー工業体育館			14:00～	ＨＣ名古屋×三重花菖蒲
		沖縄	浦添市民体育館			13:00～	ソニーセミコンダクタ九州×北國銀行
12	1月27日（土）	広島	中区スポーツセンター			14:00～	広島メイプルレッズ×ＨＣ名古屋
	1月28日（日）	三重	鈴鹿市立体育館			14:00～	三重花菖蒲×ソニーセミコンダクタ九州
13	2月3日（土）	京都	八幡市民体育館			14:00～	オムロン×三重花菖蒲
		広島	佐伯区スポーツセンター			14:00～	広島メイプルレッズ×北國銀行
		鹿児島	霧島市国分体育館			14:00～	ソニーセミコンダクタ九州×ＨＣ名古屋
14	2月10日（土）	埼玉	戸田市スポーツセンター	14:00～	大崎電気×ホンダ熊本		
		福井	北陸電力福井体育館フレア	14:00～	北陸電力×豊田合成		
		愛知	東海市民体育館	13:00～	トヨタ車体×ホンダ		
				15:00～	大同特殊鋼×トヨタ自動車		
		広島	東区スポーツセンター	14:00～	湧永製薬×トヨタ紡織九州		
		熊本	山鹿市総合体育館			14:00～	オムロン×ＨＣ名古屋
		鹿児島	ソニーセミコンダクタ九州㈱体育館			14:00～	ソニーセミコンダクタ九州×広島メイプルレッズ
	2月11日（日）	石川	小松総合体育館			13:00～	北國銀行×三重花菖蒲
15	2月17日（土）	愛知	大同工業大学石井記念体育館	15:00～	大同特殊鋼×豊田合成	13:00～	ＨＣ名古屋×ソニーセミコンダクタ九州
		三重	四日市市中央緑地体育館	14:00～	ホンダ×大崎電気		
		広島	東区スポーツセンター			14:00～	広島メイプルレッズ×三重花菖蒲
		熊本	人吉スポーツパレス	14:00～	ホンダ熊本×トヨタ自動車		
		宮崎	小林市市民体育館	18:00～	トヨタ車体×湧永製薬		
	2月18日（日）	山口	岩国市総合体育館			13:00～	北國銀行×オムロン
		佐賀	トヨタ紡織九州クレインアリーナ	14:00～	トヨタ紡織九州×北陸電力		
16	2月24日（土）	愛知	中村スポーツセンター	13:00～	湧永製薬×ホンダ		
				15:00～	大同特殊鋼×大崎電気		
			知立市福祉体育館	13:00～	トヨタ車体×ホンダ熊本		
			稲沢市総合体育館	13:00～	トヨタ自動車×北陸電力		
				15:30～	豊田合成×トヨタ紡織九州		
	2月25日（日）	愛知	知立市福祉体育館	11:00～	トヨタ紡織九州×トヨタ自動車		
				13:00～	トヨタ車体×大同特殊鋼		
			春日井市総合体育館	15:00～	ホンダ熊本×ホンダ	13:00～	ＨＣ名古屋×北國銀行
		岐阜	岐阜アリーナ	13:30～	豊田合成×湧永製薬		
				15:00～	北陸電力×大崎電気		
17	3月3日（土）	福井	北陸電力福井体育館フレア	14:00～	北陸電力×ホンダ		
		愛知	中村スポーツセンター	13:00～	大同特殊鋼×湧永製薬		
			三好公園総合体育館	13:00～	豊田合成×大崎電気		
				15:00～	トヨタ自動車×トヨタ車体		
		広島	東区スポーツセンター			14:00～	広島メイプルレッズ×北國銀行
	3月4日（日）	佐賀	佐賀県総合体育館	15:00～	ホンダ熊本×トヨタ紡織九州	13:00～	ソニーセミコンダクタ九州×オムロン

◎ JHL ホームページにチーム情報、全日程、会場案内を掲載しています。　http://www.jhl.handball.jp/
http://www.jhl.handball.jp/i/（i-mode 対応用）

第４回ハンドボールコーチング研究会

平成 18 年 3 月 19 日、渋谷：ホテルサーブ会議室において、第 4 回ハンドボールコーチング研究会が開催されました。本研究会は、全国の指導者が自身の経験や・知見を持ち寄り、実際の現場で有用な情報を共有する機会として位置付けられています。

今号より、過日のハンドボール研究会の発表につきまして、本誌で報告する運びとなりました。今月は東海大学の田村修治先生の発表内容「ハンドボールのシュート技術に関する３次元解析」を報告させていただきます。なお、他の発表については次号以降で報告を連載いたします。

(財)日本ハンドボール協会指導委員会研究部会　舎利弗　学（学校法人福島高等学校）

ハンドボールのシュート技術に関する３次元解析

田村　修治（東海大学）

キーワード：技術分析、シュート、３次元解析

Ⅰ．はじめに

ハンドボール競技は、多くのボールゲームと同様に得点を争う競技なので、シュート技術に関する研究は数多くなされている。しかし、実験場面を設定したものが多く、実際の試合場面を分析したものは多く見当たらない。ハンドボールの技術分析は、実際の試合場面を記録して解析する方法が最も有効と考える。実際の試合場面では、シューターとディフェンスといった対応動作が要求されるので、１対１での戦術的観点から定量的に技術分析する必要がある。

そこで本研究は、シュート時におけるシュートフォームとディフェンスのブロックの位置及びボールの軌跡に着目し、シュートが成功した場面と失敗した場面では、どのような違いがあるかを比較・分析し、“シュートのコツ” を明らかにしようとした。

Ⅱ．方法

１．撮影

1997 年熊本にて開催された男子世界選手権大会の試合を VTR カメラで撮影した。ハンドボールコートの２つのゴール前中央を撮影できるよう右側方、右斜め前方に１台ずつ計２台、左側方、左斜め前方に１台ずつ計２台、合計４台のカメラを設置し、試合開始から終了までの全プレイを撮影した。キャリブレーションを行うために、５個のコントロールポイントがついたリファレンスフレームを５箇所設置し撮影した。

２．分析時期

撮影された VTR より、踏み切り開始１歩前の助走からシュートし、シュートコースが識別できるまでの動作局面が２台のカメラで撮影されており、かつディフェンスのブロックが関与しているシュート動作を選択した。

３．分析観点

撮影によって得られた２本の VTR それぞれについて、リファレンスフレームのコントロールポイント、試合中の選手の身体各部の計測点及びボールを DLT 法により、３次元座標を算出した。得られた３次元座標から身体各部の角度等、以下の諸量を求めた。

１）体幹の捻り

左右肩関節中点及び左右大転子中点を結んだ線と X 軸（ゴールライン）との交点の角度を肩角度及び腰角度と表示し、その角度差を体幹の捻りとした。

２）オフェンスに対するディフェンスの位置

シューターがフォワードスイングを開始する時機に、ゴール方向に位置するディフェンス（左右大転子を結んだ線）がオフェンス（左右大転子を結んだ線）と半分以上重複した場合、シュートコースを限定していると判断した。

３）ボールの軌跡

シューターがフォワードスイングを開始する時機の前後（約 0.2 秒）のボールの軌跡を延長させ、シュートコースを判断した。

Ⅲ．結果及び考察

ゴールキーパーは、シューターのフォワードスイング開始時期又は、その前にシュートコースを予測・判断し、動き出すことからフォワードスイング開始時機のシュートフォームが、ゴールキーパーの動き出しに大きく影響を与えていると考えられる。このことから、フォワードスイング開始時点での肩角度及び腰角度の変化を分析し、身体の捻りを算出してシュートコースを先取りした。

図１は右利き選手が、ゴールの左側にシュートし、ゴールキーパーにシュートを阻止された場合の体幹の捻り、ディフェンスの位置及びボールの軌跡を示したものである。

右利きの選手が左方向にシュートし、そのシュートを阻止された場合、フォワードスイング開始時機に肩角度と腰角度にほとんど差は見られず、肩及び腰がゴールに正対していた。いわゆる体幹の捻りがほとんどない状態となっていた。以上の結果から、体幹がゴール面に正対するフォームの場合、「左側へのシュートフォーム」の特徴であると考えられる。

	全:最大値	:time	最小値	:time	平均値	分散	標準偏差
肩角度	20.865	0.367	-78.600	0.117	-34.485	1.12e+003	33.5
腰角度	-11.664	0.3	-39.652	0.567	-21.521	91.9	9.58

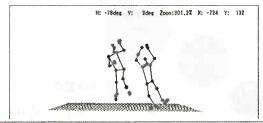
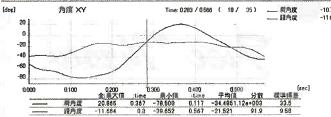
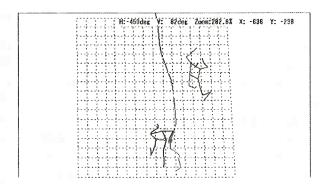



図１　左側へのシュートを阻止された場合のスティックピクチャー、ボールの軌跡及び肩角度と腰角度の経時的変化

	全:最大値	:time	最小値	:time	平均値	分散	標準偏差
肩角度	56.798	0.833	-80.065	0.417	-25.283	2.13e+003	46.1
腰角度	20.172	0.783	-80.781	0.2	-19.892	899	30

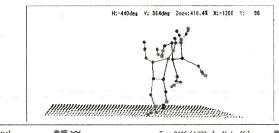
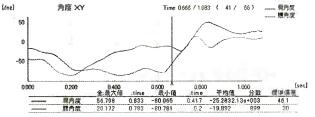
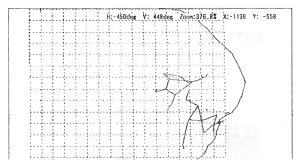



図２　左側へのシュートを成功させた場合のスティックピクチャー、ボールの軌跡及び肩角度と腰角度の経時的変化

図２は、右利きの選手が左方向にシュートし得点した場合の体幹の捻り、ディフェンスの位置及びボールの軌跡を示したものである。フォワードスイング時機の肩角度と腰角度に大きな

差が見られた。この結果から、「右方向へのシュートフォーム」の特徴であると考えられる。

「体幹の捻り」「ディフェンスの位置」「ボールの軌跡」の３つの観点が一致し、ボールリリース後、逆方向へシュートした場合は、100％成功していた。一方、「体幹の捻り」「ディフェンスの位置」「ボールの軌跡」の３つの観点とボールリリース後のシュートコースが一致した場合、そのシュートは100％阻止されていた。シュート失敗時においては、フォワードスイングの時期からボールの軌道がシュート方向へ向いてしまい、またディフェンスの限定している方向のため、ゴールキーパーに予測しやすい状況になっている。シュート成功時のボールの軌跡は、フォワードスイングからボールリリース直前までシュート方向、又はディフェンスの限定している方向を描き、ボールリリースの直前で逆方向へ軌跡を描いている。つまり、シュート成功時においては、ボールリリース直前までシュートとは逆方向の軌道を描き、またディフェンスの限定している方向とは逆へボールリリース直前にシュート方向へ軌跡が変化し、ゴールキーパーが予測しにくい状況を作っていることがわかる。ゴールキーパーは、フォワードスイング開始前後にシュートコースの最終判断を行うため、フォワードスイングの途中で逆方向にボールの軌跡を変化させることがシュート成功において特に重要である。

Ⅳ．まとめ

以上の分析の結果からハンドボールの試合場面でシュートを成功させるには、以下の点を考慮し、実践できれば有効であると考えられる。

ディフェンスの正面から外れた位置でフォワードスイングを開始できるようにする。

ディフェンスのいないコースにシュートをするようなフォーム（体幹の捻り）を作る。

フォワードスイング開始時機の前後のボールの軌跡と異なるコースへシュートする。

「体幹の捻り」や「ディフェンスの位置」からシュートコースを先取りされた場合でも、フォワードスイング開始時機前後のボールの軌跡を逆方向へ変化させるために手首の返しを使うことがシュート成功における重要なポイントである。

～北京へ まずアジア制覇を～

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw フリースロー

日本中を熱狂させたサッカーのドイツワールドカップ。しかし、１次リーグ１分け２敗で敗退が決まると「狂想曲」は潮が一気に引いたように静かになった。これからさらにハイレベルの戦いが始まろうというのに…。いつものことながら、成熟していない日本のスポーツ文化の真の姿ではないだろうか。

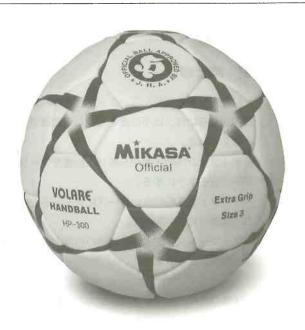
こうした現象でも分かるように、日本のスポーツ界を支えるファン、そしてメディアは勝利がすべてなのである。だから、オリンピック出場を逃がし続ける競技なんか、まるで見向きをしなくなるのがお分かりだろう。ハンドボール界に目を移せば実に明快と言っていいだろう。

オリンピックには男子が1988年のソウル大会、女子がもっとさかのぼって1976年モントリオール大会以後、出場を果たしていないのだ。当然、人気は上がらないし、メディアにも登場機会が少なくなるのは当然である。いくら、関係者が大声を張り上げて「ハンドボール」を叫んでも、跳ね返ってこないのが寂しい現実である。

そういった視点から見れば、08年北京オリンピックには、死に物狂いでも出場権を奪わないことには、ますますファン獲得は遠のき、メディアからはそっぽを向かれる現実が待っていると言えるのではなかろうか。

幸い昨年の女子に続いて男子の日本代表も今年、外国人監督を迎え北京への道を切り開く構えを見せている。その第一歩が12月、カタールで開かれるアジア大会だ。ドイツで敗退したサッカー代表でも指摘されたように、チームとして全体のレベルアップはもちろんだが「個の力」の底上げが欠かせない。

局面、局面での一瞬の判断は自らが切り開くことが重要な要素である。日本人の性格からいって細かく指導されることも大切だが、合わせて個々の強さがなくては厳しい現実を乗り越えることは難しい。

「個の力」は技術力向上だけではない。強い精神力、フィジカルなどすべての面を指しているのだ。対戦する相手をまずは威圧する勝負にかける執念も重要だろう。いくらいい指導者を招いても、プレーするのは選手である。日ごろから「ハンドボール」を最優先に掲げた生活をしてこそ、目標をたぐり寄せることが可能だ。アジアを制覇する－そうした強い信念を持って、まずは「カタール」をターゲットに、なんとしても「アジアNo.1」をもぎとりたい。

平成17年度

第2回 コーチ・レフェリーシンポジウム 報告

競技者育成技術委員会委員　笹倉 清則（指導委員長）

標記シンポジウムが、2006年3月17日（金）・18日（土）、東京・駒澤大学で開催されました。このシンポジウムは、競技者育成技術委員会が主催し、強化部、審判部、NTS、指導・普及部、日本リーグが一体となって日本のハンドボールの将来を考える場となりました。出席者には、ナショナルコーチングスタッフをはじめ、日本リーグ担当レフェリーなど、現在の日本のハンドボールを支えるトップコーチ・トップレフェリーが顔を揃え、総勢89名の参加者となりました。内容についても、ベルト・バウワー女子監督が初めてコーチング指針について日本の指導者に対して話をする機会になったなど、非常に興味のある内容でした。

今号では、シンポジウムの概要について笹倉清則指導委員長の報告を掲載いたします。

●プログラム内容

①日本ハンドボールのこれから　専務理事　大西武三

大西武三日本協会専務理事より、日本のハンドボールおよび日本協会の現状と今後の活動方針について、開会のあいさつが行われた。

②世界の傾向と日本の課題　強化委員会委員　藤本　元

藤本元強化委員より、「世界のハンドボールの傾向と日本の持つ課題」について、2005年の男女世界選手権の帯同およびIHFシンポジウムへの出席から導き出された、映像を伴った詳細な資料によりプレゼンテーションが行われた。

③IHFレフェリーシンポジウム報告　審判国際委員会委員長　後藤　登

後藤登審判国際委員長より、6/21からタイ・バンコクで開催された2005年IHFコーチ・レフェリーシンポジウム〈レフェリー部門〉および第12回男子アジア選手権（兼2007世界選手権予選）の審判に関する報告が行われた。

④世界女子ジュニア選手権大会報告　女子ジュニア日本代表監督　東江正作

東江正作女子ジュニア日本代表監督より、8/1からチェコで開催された第15回世界女子ジュニア選手権における戦果について、映像を交えたプレゼンテーションが行われた。

⑤NTSの今後の方針　NTS運営委員会委員長　水上　一

水上一NTS委員長より、2005年度のNTSセンタートレーニングの報告および2006年以降の運営方針について説明が行われた。

笹倉清則氏

⑥年代別一貫指導について　指導委員会委員長　笹倉清則

笹倉清則指導委員長より、日本における年代別一貫指導について、提案が行われた。

⑦男子ナショナル活動報告　男子全日本監督　松井幸嗣

松井幸嗣男子全日本監督より、1/23からチュニジアで開催された第19回世界男子選手権における戦果について、映像を交えたプレゼンテーションが行われた。

⑧レフェリーとコーチの協調について　審判委員会委員長　島田房二

島田房二審判委員長より、レフェリーとコーチの協調について、あいさつが行われた。

⑨女子ナショナル活動報告　女子全日本監督　ベルト・バウワー

ベルト・バウワー女子全日本監督より、12/5からロシアで開催された第17回女子世界選手権の戦果と、バウワー監督の指導指針についてプレゼンテーションが行われた。

⑩日本ハンドボールの歩む道　強化本部長　蒲生晴明

蒲生晴明強化本部長より、日本のハンドボール界のとるべき道について、閉会のあいさつが行われた。

⑪日本リーグプレーオフ観戦

場所を駒沢体育館に移動し、日本リーグプレーオフ初日を観戦し、参加者相互に意見交換が行われた。

以下、簡単にそれぞれのセクションについて、概要を報告します。

●世界の傾向と日本の課題

①現代ハンドボールの傾向について、②男子世界選手権における日本チーム分析、③女子世界選手権における日本チーム分析、の3パートに分けて非常に整理された映像による説明が行われた。

世界標準のハンドボールは、「ゲームのスピード化」「攻撃の質の向上と多様性」「ゲームにおける防御の戦略性」がキーワードとなっており、攻撃回数は1チーム60回前後、28点前

後の得点で勝敗が決するとのことであった。

世界選手権における男女ナショナルチームの分析については、詳細な数値データとその具体例を実際の映像と照らし合わせながら細かく報告された。

●IHF レフェリーシンポジウム報告

世界 155 ヶ国・170 名のコーチ・レフェリーが参加したタイ・バンコクでの IHF コーチレフェリーシンポジウムについて報告がなされた。今シンポジウムでは、新ルールに関する事項と、コーチ・レフェリーの協調・共同作業によりハンドボールをスピーディーでいかに魅力的なスポーツに発展させるかについて、国際ハンドボール連盟・指導方法委員会と国際ハンドボール連盟・競技規則審判委員会のメンバーによって討論が行われた旨の報告であった。今回 IHF シンポジウムが 8 年ぶりにコーチ部門とレフェリー部門の合同開催であったことは、世界がコーチとレフェリーのジョイントミーティングを重要に捉えている証であり、日本においてもこの流れは大切であるとの報告がなされた。後藤氏がレフェリーの立場から印象に残っている言葉として、「レフェリーの問題は、彼らはルールを知っているが、ゲームを知らないことである」との引用をされたことが心に残るものであった。

また、アジア大会でのレフェリーミーティングの内情についても生々しく報告され、改めて AHF の現状に対しての憂いを感じた。

●世界女子ジュニア選手権報告

チームの方向性は、「選手自ら考え、行動する」「コートの中で 100%ファイトする」の 2 点とし、戦術として攻撃は「強い縦の攻めからワイドな位置取りをし、パラレル・ポジションチェンジ・システムチェンジで継続的に攻める」、防御は「高い位置でコンタクトしクロスアタックで余裕を与えない」、速攻は「一次、二次、三次と継続して仕掛ける」ことを掲げたとのことであった。対戦相手ごとの戦い方の説明に加え、編集されたゲーム映像を交えて、非常にわかりやすい報告であり、開催国チェコから大金星を挙げての過去最高の 10 位という結果を表す報告であった。

●NTS の今後の方針

NTS の事業理念について、トップ選手の育成・強化とともにトップコーチの育成・強化も図っていくことになり、選手においては、特にジュニア期における選手の発掘方法の整備と年代別のトレーニング内容の精選が課題となること。また、指導者においては、NTS インストラクターの養成とともにナショナルスタッフの養成について NTS センタートレーニング等を通して行っていくことなどの説明があった。toto からの補助金が大幅に削減され、次年度以降のブロックトレーニングの援助については乗り越えならねばならない大きな課題である。

●年代別一貫指導について

世界で通用する「自立した個性ある選手」の育成を目指して、

ベルト・バウワー監督

日本人の特長である機動力・適応力・組織力を活かした選手養成のための年代別一貫指導について、卵から幼虫、さなぎ、成虫へと成長していく蝶をモデルにして、攻撃・防御の基本コンセプトを中心にした提案がなされた。

●男子ナショナル活動報告

第 19 回世界男子選手権における日本の戦い方について、目標・チーム方針・基本戦術構想などの説明とともに、8 年ぶりに出場した世界選手権から感じた点、日本チームの今後の課題について報告があった。日本の課題として、「強靭な精神力の強化」「当たり負けしない体格・筋力の強化」「豊富な国際経験」「機動力溢れるスピードハンドボールの推進」が挙げられた。

●女子ナショナル活動報告

第 17 回世界女子選手権における日本の戦い方および大会を終えての日本チームの評価についての報告とともに、バウワー監督の指導方針について説明が行われた。

指導方針は、「テンポあるハンドボール」「60 分間メンバー全員で高いクオリティーを保ちながら、相手にプレッシャーをかけ続ける」「日本人のスピードと素早さを全ての局面で活用」を大きな柱として掲げていた。この視点から今回の全日本を評価すると、「日本チームはロシア以外のどのチームとも十分戦うことができる。」「クロアチア戦および中国戦の前半はよかった。後半でいつも犯してしまうミスによって後退していった。」とのことであった。

以上、2 日間にわたり行われたシンポジウムであったが、例年と比較しても、中身の濃いシンポジウムであったと自負している。特に、DVD 5 枚の資料を全参加者に配布できたことが大きいと思う。IHF がまとめた 2 つの世界選手権の公式記録集、女子世界選手権の日本 vs クロアチア、日本 vs 中国、Tactics of Handball in the World Vol.3、バウワー監督の Coordination & Speedtraining の 5 枚であるが、参加者からも大変好評で、この資料はこのあと、日本協会から改めて販売される予定である。

初めて競技者育成技術委員会主催のシンポジウムとなったが、今後とも強化・審判・NTS・普及・指導・日本リーグが一体となって、日本のハンドボールの将来に対して共通理解をもつ機会を大切にしていく必要を改めて痛感した次第である。このシンポジウム開催にあたり、各方面の多くの関係者の皆様には大変お世話になり、心より感謝申し上げます。

平成17度
第2回コーチ・レフェリーシンポジウムに参加して

東京都協会所属審判員　黒木 秀吾

1. 全　般

平成18年3月17日（金）13時から3月18日（土）に、「平成17年度度コーチ・レフェリーシンポジウム」が駒澤大学で行われ、私はレフェリーとして参加した。

本シンポジウムの目的は、日本ハンドボールの競技力をさらに発展させるため、今年度開催された国際大会や国際シンポジウムから現状や問題点を明らかにし、将来の日本のハンドボールのあり方を模索するものであった。

内容は、女子ナショナルチーム監督のバウワー氏を初めとした代表的な指導者による、現代ハンドボールの戦術などの分析・検討・報告などであった。また、後藤氏によるAHFの現状や、水上氏・蒲生氏によるNTSのあり方・考え方等の説明も特に興味深く、ハンドボールに携わる一個人としても大いに収穫あるシンポジウムとなった。

2. レフェリーとして感じた事

（1）プレーのハイスピード化

本シンポジウムの技術的キーワードは何と言っても「ハンドボールのハイスピード化」であった。現代のハンドボールは、プレーヤー・パス及びシュート・展開・ゲーム運びなど、それぞれハイスピード化しており、それらのプレーをレフェリーとして如何にゲームの流れを読みながら正確に裁き、ナイスタイミングで笛を鳴らすかを考えさせられた。今までの形式にこだわった、レフェリーの動きやプレーを見る位置、またペアの役割分担や笛を鳴らすタイミングなどを再研究（常々研究する事ではあるが）しなければならない。

（2）情報のハイスピード化

直接プレーとは関係ないが、本シンポジウムでは「情報のハイスピード化」についても特に注目をした。IHFから通達される規則解釈、種々の映像情報、また国際大会の内容や発生した事案などの従来なら数年かかって伝達されていた情報が、最近は整備された情報インフラのなかで国内への発信速度・量が増しきている。現に本シンポジウムでは最近の国際大会での映像を利用した説明が数多く行われ、説明資料や試合の模様などの情報もDVDに記憶させ配布してもらうなど、まさにIT時代のシンポジウムであった。

3. レフェリーとしてやらなければならない事

本シンポジウムで得たハイスピードのハンドボールに、スムーズに対応したレフェリングが出来るよう、我々レフェリーは、日頃から体力づくりや、国際大会やトップチームの戦術を映像など利用した研究、また練習試合などを含めた色々な試合を積極的に審判しに行くなど、考えてみればレフェリーとしての当然の努力を継続的に行わなければならないと、あらためて感じさせられた。

あわせて、タイムリー且つ増加しつつある情報を、それぞれ丁寧に分析し、自分のレフェリングに生かす一方、これら情報を本シンポジウムに参加できた代表レフェリーとして、後輩レフェリーにタイムリーに伝達していかなければならいと痛感させられた。

4. 最後に

本シンポジウムの終わりに、蒲生氏がハンドボールの強化の根本は、本シンポジウムに参加した我々の意識である旨の話があった。文頭にも書いたが、私もハンドボールに携わる一個人として、微力ながら、今後とも日本ハンドボールの強化普及に努めていきたいと感じた。そのためにも今後とも自身のレフェリング技術の錬磨を継続していこうと思う。

末尾になったが、本シンポジウム開催に携わった方々の多大な苦労に敬意を表し、深く感謝を申し上げたい。

NTS2006報告

NTSコーディネーター　田 中　茂

今年度も沖縄県、北信越をかわきりにNTSも本格的にスタートを切りました。今後とも皆様方のご理解とご指導をお願い申し上げます。７年目を迎えたNTSですが、すでにこの号が発行されるときには結果も出ているかと思いますが、アジアユース、世界学生大会に出場し将来につながる経験を重ねております。このヤングジャパンを支えている多くの選手がNTSにより発掘され、強化合宿を重ね育成されてきた選手達であり、NTS（一貫指導システム）の重要性を再認識できたのではないかと思います。

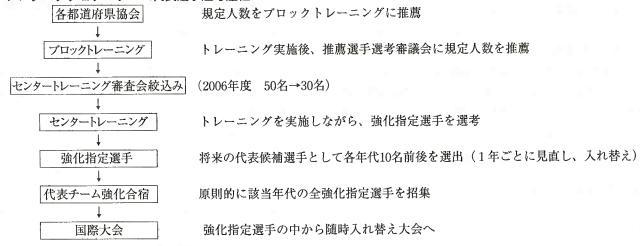
今月号ではNTS2006年度ブロックトレーニング・センタートレーニング推薦についてお知らせいたします。

NTS2006年度ブロック・センタートレーニングへの推薦について

1．NTSの趣旨（NTSはハンドボールの普及・発展のシステムです。）

将来日本の代表選手として世界と戦うことができる選手の発掘と育成。

指導者への情報提供及び指導者の育成。

2．アンダーナショナルチーム代表選手選考過程

3．センタートレーニングへの選考基準

第１選考基準
- 日本国籍を有している選手
- 日本ハンドボール協会、強化部会から推薦を受けている選手

第２選考基準
- センタートレーニング形態的特長基準を上回る選手
- センタートレーニング運動能力的特長基準を２項目以上、上回る選手

第３選考基準
- 技術戦術的特長を有する選手
- その他の理由で推薦に値する選手（左利き、リーダーシップ、①②はクリアーしないがクリアーに近い選手…など）

4．各都道府県協会におけるブロックトレーニングへの推薦について

ブロックトレーニングへの推薦は必ずしも上記の選考基準をクリアーしている必要はありません。

ただし、推薦選手選考会における選考基準を考慮し、推薦理由を明確にして推薦してください。

特徴のある選手、一芸に秀でる選手を推薦してください。

※日中韓交流大会選抜選手について（参考）

(1)各都道府県協会よりブロックトレーニングへ推薦されていること。

(2)センタートレーニングへの選考基準第一から第三のいずれかに準ずる者であること。

(3)日中韓交流大会に参加する選手はブロックトレーニングへの参加を免除する。

5．各ブロックにおけるセンタートレーニング審査会への推薦について

各ブロックにおける推薦は、NTSスタッフ（技術委員長、運営委員、コーディネーター、中体連委員、高体連委員、インストラクター）４名以上で話し合い、技術委員長が責任を持って行ってください。

推薦者メンバーはブロックトレーニング実施前に決定してください。

センタートレーニングへの推薦選手はブロックにて推薦順位を決めてください。

日中韓交流大会に参加する選手はセンタートレーニングへ推薦してください。ただし、センタートレーニング審査会にて人数の絞込みを行います。（参考）

NTSブロックトレーニング推薦書

氏　名

ブロック名　　　　　　　　　　推薦都道府県

所　属　　　　　　　　中学・高校　年生

ポジション　GK（キーパー）・LW（左サイド）・RW（右サイド）
LB（左バック）・CB（センターバック）・RB（右バック）・P（ポスト）　※複数回答可

チーム責任者名

		個人データ記入欄	参考（センター推薦基準）			
			高校男子	高校女子	中学男子	中学女子
形態	身長	cm（合）	185cm	170cm	180cm	167cm
	体重	kg				
	利き手	右・左				
運動能力	30m走	sec（合）	4.02sec	4.55sec	4.22sec	4.68sec
	立ち五段とび	m（合）	13.63m	11.19m	12.57m	10.72m
	ハンドボール長座投げ	m（合）	26.40m	19.22m	25.60m	15.82m
	背筋力	kg（合）	191kg	136kg	171kg	109kg
	握力	平均　kg（合）	58kg	40kg	53kg	37kg
		右　kg ／ 左　kg				

推薦理由　　記入者名

適合する番号に○印を付けてください。
① 日本ハンドボール協会、強化部長から推薦を受けている選手。
② センタートレーニング形態的特長基準を上回る選手。
③ センタートレーニング運動能力的特長基準を2項目以上、上回る選手。
④ 技術戦術的特長を有する選手。

特記事項

⑤ その他の理由で推薦に値する選手。
（左利き、リーダーシップ、①②はクリアーしないがクリアーに近い選手……など）

特記事項

※ここから先はセンタートレーニング審査会に推薦する選手のみ、ブロック推薦委員が記入してください。

NTSセンタートレーニング審査会推薦書

推薦理由　○印を付けてください。　　国籍（　　　　）

①・②・③・④・⑤・特記事項（必ず推薦コメントを記入してください）

推薦委員署名欄（NTSの役職もお書きください）

ハンドボール競技・IHF医事委員会 2006年度会議への参加報告

—アンチ・ドーピングの現況問題点—

IHF医事委員・AHF医事委員長　**西山　逸成**

はじめに

2006年度計画（2005年度会議で内定）では、サンパウロ（ブラジル）でハンドボールスポーツ医・科学に関するシンポジウム＆IHF医事委員会の予定であったが、航空・滞在費の予算難のため、急遽バーゼル（スイス）に変更・実施になった。

1．出席者

IHF　専務理事（Mr Frank Birkefeld）　医事委員会担当（Ms Theresa Riesen）

委員長	Dr Francos Gnamian（CIV）	コートジボアール
委　員	Dr Issei Nishiyama（JPN）	アジア大陸
	Dr Ridoha Mokni（TUN）	アフリカ
	Prof Inge-lis Kanstrup（DEN）	ヨーロッパ
	Prof Hans HOLDHAUS（AUT）	メンバー
	Dr Samir Salim DAHER（BRA）	メンバー
欠席委員	Dr Jose RODRIGUEZ AYABAR（DOM）	アフリカ
	Dr Andras TALLAY（HUN）	メンバー

2．議題の主要概容

1）IHF　2006～2009年度開発プログラム：「ハンドボールの科学」セミナー（案）

①内容；競技試合、生理学、トレーニングの基本原理、コンディショニング、動作分析、スポーツ栄養、サプリメント、アンチ・ドーピング、傷害予防

②講師；IHF/Mc委員

③セミナー期間；4日間（1日4講座）

2）アンチ・ドーピング

①アンチ・ドーピングの教育と情報伝達

CDR作成—加盟各国連盟に対し配布予定

②各大陸のアンチ・ドーピング実施現況

アフリカ・ヨーロッパ・パンアメリカ；(別途資料報告)

アジア；1997～2006年、20大会、156検体（男87、女69）

3）アンチ・ドーピングシンポジウム

IOC、WADA、IHF/NADO等のシンポジウム参加経費の確保

4）2006世界選手権大会におけるドーピング・コントロール

①女子ユースU-20世界選手権大会（カナダ）

②男女ビーチハンドボール世界選手権大会（ブラジル）

5）2006 IHF/MC 会議予定

①2006年11月20日（月）～27日（月）の5日間

②男女ビーチハンドボール世界選手権のドーピング・コントロールと併用

3．アンチ・ドーピング（ドーピングコントロール）の現況問題点

項目	主要内容	課題・留意事項
競技会検査と競技会外検査の実施重視（WADA 5.1.1条）	競技会・競技会外検査共にJHAが計画・実施	国際大会；IHF, AHFと事前に実施検討 NADAと調整
病気・ケガの治療のための 禁止物質・方法の使用申請様式 TUE＝標準申請で大会3週間前までにIHFに申請する。 ATUE＝略式申請で医師の申請 （ATUE/TUE-WADA4.4）	各国連盟（JHA）からIHFに申請と同時にNADAにも申請をする。（IHF2.6.&4.2） ＊ JHA最近のATUE事例； ①チームトレーナーからの提出時、診断名だけの記載で医師の病歴等の記入なし ②病歴等の記入指導後、チームトレーナーから直接、NADAにATUEが提出され、NADAから認定書が返送された。	参考；（機関誌関連） ATUEの提出例から； ＊1；病歴・診療所見・検査結果記載されており、検査前の提出であれば提出時点で使用許可がえられる。 ＊2；今後の申請時には、担当ドクターからJHAアンチ・ドーピング機構（坂本委員長）に都度提出をお願いしたい。
居所情報の報告手続き （WADA14,5.1.1IHF5.1,5.2,5.3）	国際的競技者— IHF・WADA 国内的競技者— NADA	＊国内的競技者リストには国際的競技者も含める。
国際大会、各国内大会におけるドーピング検査実施の有無の決定について （WADA15.1条）	IHF, AHF主管大会ではドーピング検査の実施義務がある。 （IHF第6条、AHF 4条）	大会実施前に関係組織と調整する。未実施時はNADAがWADA, IHFと協議実施。
国際大会におけるドーピング検査方法の差異について 例； 第1回男子ユース世界選手権大会 （2005年8月、ドーハ） 第3回西アジア大会 （2005年12月、ドーハ） 正しい抽選要領； 試合提出メンバー表全員が抽選対象となる。 抽選時期は、試合後半終了の IHF；直前（基準を5分前）、 AHF；10分前と定めている。	1. 男子ユース世界選手権； （2005年8月、ドーハ） ①抽選時期は試合前、検査室にチーム監督を呼び抽選。（OCA方式） ②ハーフタイム時に選手名通知。 2．西アジア大会時（2005年12月、ドーハ） ①またもやOCA方式で実施 ②直ちに抗議！ DAGOCドーピング責任者、黒田OCA医事委員長& DAGOC医事委員長DR Al-Muslarの現地確認・了解を経て、IHFルール適用。	1. 大会計画作成時点で、関係組織・担当主務者と調整する。 2. IHFドーピング検査責任者DCO（NISHIYAMA）は直ちにIHF責任者に確認しIHF方法に変更した。 IHF － DAGOCに依頼； ＊ 2006年4月25・26日のIHF医事委員会で要望した。 「2006年12月のアジア大会ハンドボール競技におけるドーピング・コントロールでは、IHF規則による検査実施を強力に要望されたい。」

平成18年度 第9回ハンドボール研究集会要項
テーマ「ボール運動教材としてのハンドボール －その9－」

趣　　旨　本研究集会では、ハンドボールの魅力や諸特性に対して認識を深めると同時に、子どもたちの発育・発達に見合ったハンドボールの授業づくりについて研修する。

主　　催　（財）日本ハンドボール協会

主　　管　岡山県ハンドボール協会

後　　援　文部科学省　岡山県教育委員会　岡山市教育委員会

対　　象　小学校・中学校および高等学校教諭　教員養成大学学生・大学院生および教官
地域スポーツ指導者、日本ハンドボール協会J級指導員等

会　　期　平成18年8月10日（木）受付12時～・11日（金）

会　　場　岡山県・桃太郎アリーナ

講　　師　藤井喜一（東京学芸大学教育学部附属世田谷小学校副校長）
大西武三（筑波大学体育科学系教授）

学校体育ハンドボール検討専門委員会事務局
〒010－8502 秋田県秋田市手形学園町1－1　秋田大学教育文化学部スポーツ・健康教育講座　佐藤　靖気付
TEL（018）889－2577　FAX（018）889－2577　E-mail:yasushi@ed.akita-u.ac.jp

大会事務局　〒700-0964 岡山県岡山市中仙道48－101　岡山市立西小学校内　信原悦治気付
TEL（086）241－0936　FAX（086）241－3025　E-mail:e-nobuhara@hat.hi-ho.ne.jp

参 加 費　4,000円（資料代、および保険料込み。当日受付にて徴収いたします。）

参加申込　①氏名　②年齢　③勤務先　④連絡先住所・電話番号　⑤交流会参加の有無を明記の上（書式自由）、ハガキ、ファックスまたはEメールにて大会事務局までお申し込み下さい。

発表申込　研究発表を希望される方は、学校体育検討専門委員会事務局までお問い合わせ下さい。

平成18年度 実践研究推進校募集要項
「小学校体育科授業におけるハンドボール教材の展開について」

（財）日本ハンドボール協会では、以下の通り、実践研究推進校を募集しています。

1．趣　旨　小学校における教材としてのハンドボールの課題について、総合的に実践研究を行ない、体育科授業の充実を図るとともに、ハンドボールの普及を図る。

2．研究実践内容

（1）実践研究のテーマは次のとおりとする。

ア　課題解決型の学習（めあて学習）の充実とその進め方

イ　児童の体力（投能力）の向上に関する取組の在り方と進め方

ウ「体ほぐしの運動」の内容と方法

エ　運動部活動の充実と運営の在り方

オ　その他

（2）推進校は、「ボール運動」、もしくは「ゲーム」でハンドボールを取り上げ、上記の内容から二つ以上のテーマを選び、その一つを主テーマとして、実践研究を進めることとする。

なお、上記のテーマのうち、例えばイとウなどは一体的に実践研究することもできるものであり、一体的に行なう場合は、一つのテーマでまとめて実践研究することができることとする。

3．研究実践期間　おおむね2年間とする。

4．対象推進校　各都道府県協会より推薦された小学校の中から8校程度選定する。選定は（財）日本ハンドボール協会学校体育ハンドボール検討専門委員会で行なう。

【平成17～18年度 推進校】

1．岩手県：矢巾町立矢巾東小学校
2．秋田県：秋田大学教育文化部附属小学校
3．岐阜県：岐阜大学教育学部附属小学校
4．愛知県：名古屋市立道徳小学校
5．大阪府：八尾市立用和小学校
6．岡山県：奈義町立奈義小学校
7．高知県：高知市立横浜小学校
8．長崎県：佐世保市立金比良小学校

5．経　費　日本協会は、研究委託費として予算の範囲内で支出委任する。委託費は、1年目が6万円、2年目が4万円とする。

6．締　切　第二次締切：平成18年9月22日（金）

7．申込、および問合せ先
（財）日本ハンドボール協会学校体育
ハンドボール検討専門委員会（代表　佐藤　靖）
〒010-8502 秋田市手形学園町1-1 秋田大学教育文化学部
スポーツ・健康教育講座　佐藤研究室
TEL/FAX:018-889-2577 E-mail:yasushi@ed.akita-u.ac.jp

協会だより

平成18年度 第1回評議員会

日　時　平成18年6月10日（土）
　　　　13:00-16:00
場　所　東京体育館第一会議室
出　席　評議員34名、委任状提出評議員20名、出席理事13名、出席監事2名、事務局2名

開会に先立ち、本年第61回のじぎく兵庫国体幹事市高砂市の実行委員会事務局中野榮久事務局長から挨拶があった。

議事に入る前に、渡邊議長より開会にあたり、サッカーワールドカップの話題から、北京オリンピックアジア男子予選が豊田市に決定され、悲願であるオリンピック出場を目指して協会一丸となって向かっていかなければならないことであり、皆さまの多大なるご協力をお願いする旨の挨拶がなされた。

審議事項

1．平成17年度事業報告書（案）について
大西専務理事より、各事業毎に概略が説明され、審議の結果、本件は可決承認。

2．平成17年度決算書（案）について
村松財務担当常務理事より、平成17年度の決算について説明がなされた。
殿水監事より6月5日に監事3名の立ち会いで監査を行い、業務及び会計処理など適性であったことが報告され、審議の結果、本件は可決承認。

3．平成18年度第一次補正予算（案）について
村松財務担当常務理事より、平成17年度の決算が確定したことと一部見直しがあったことから、平成18年度第一次補正案について説明がなされ、審議の結果、本件は可決承認。

4．その他
1）2016年オリンピック国内立候補都市選定について
市原副会長より、8月30日に行われる2016年オリンピック国内立候補都市の一本化を図る委員会での投票権の説明があり、この機関決定を常務理事会に一任して戴きたい旨が依頼され、審議の結果、本件は可決承認。

報告事項

1．平成18年度日本協会組織図について
大西専務理事より、平成18年度の日本協会組織図について、企画部を置いたことと事務局員の変更について説明がなされた。

2．平成18年度及び平成19年度会議日程粗案について
兼子事務局長より、平成18年度会議日程及び平成19年度の会議日程粗案について説明がなされた。

3．平成18年度国際・国内・ブロック大会日程について
江成競技担当常務理事より、平成18年度国内・国際・ブロック大会について確定、追加修正について説明がなされた。また、2009年までの国際大会予定と直近の国際大会概要について説明がなされた。

4．第10回アジア男子ジュニア選手権（ヒロシマ国際）開催について
江成競技担当常務理事より、本年8月21-31日に広島で開催される第11回ヒロシマ国際兼第10回アジア男子ジュニア選手権について、13ヶ国が出場予定であり、運営協力が依頼された。

5．北京オリンピック男子アジア予選2007豊田市開催について
大西専務理事より、来年9月1-10日で愛知県豊田市において開催が決定した北京オリンピック男子アジア予選について説明され、オリンピック出場は日本協会の悲願であり協会一丸となって臨む所存であり、協力が依頼された。また、開催地協会の村木評議員（愛知県協会理事長）からも協力が依頼された。

6．強化（ナショナルスタッフ・選手、GPプロジェクト）について
蒲生強化担当常務理事より、本年度強化スタッフ、年代別のナショナル選手および蒲生（強化関連）プロジェクトについて説明がされた。

7．ナショナルトレーニングセンターについて
蒲生強化担当常務理事より、国立スポーツ科学センターに併設される2007年12月竣工予定のナショナルトレーニングセンターの概要について説明がされた。

8．ヤングレフェリー育成プロジェクトについて
島田審判担当常務理事より、公認審判員の取得年齢を18歳から16歳に引き下げた事が報告された。低年齢の14歳からレフェリー養成をし、国際級レフェリーを目指すプロジェクトを構築し、実施することが説明された。

9．普及関係（平成18年度第9回ハンドボール研究集会他）について
角普及指導担当常務理事より、1）平成18年度第9回ハンドボール研究集会が8/10、11に岡山県・桃太郎アリーナで開催、2）平成18年度実践研究推進校募集、3）小学生大会の運営基準、小学生大会・交流会での男女混合チーム編成、4）地域活性化助成制度の対象拡大、5）日本協会公認J級指導員養成講習会の開講促進、6）ジュニアのためのガイドブック「エンジョイ!!ハンドボール」発行について説明があった。

10．日本リーグについて
市原日本リーグ機構会長より、平成18年度の日本リーグ行事日程及び日本リーグの活性化事業について説明があった。

11．がんばれハンドボール10万人会について
平岡10万人会担当常務理事より、5月末時点での会員数について説明があった。

12．その他
1）国体抽選会のシード方法について確認された。
2）車椅子ハンドボール連盟選出の半田評議員より、第4回車椅子ハンドボール大会について説明があった。
3）評議員の日本協会交通費負担について議論し、今後検討するとした。

平成18年度 第1回理事会

日　時　平成18年6月17日（土）
　　　　13:00～16:00
場　所　大崎電気工業株式会社4F会議室
出席者　理事18名、委任状出席2名、出席監事1名、出席参事9名、参事代理2名、事務局2名

山下副会長より会議開始にあたり、現在行われているサッカーワールドカップや自ら団長として参加した昨年12月の世界女子選手権における、他国に比べた日本人の体格差に触れ、最後のところでこの差が出る。これをいかに克服するかが日本の課題であり、男女ナショナルチームの両外国人監督に期待することが述べられた。

審議事項

1．平成17年度事業報告書（案）について
大西専務理事より、平成17年度の事業について、1）普及指導、2）競技、3）国際、4）審判、5）強化、6）機関誌、7）企画広報、8）財務会計、9）日本リーグ、10）総務、11）10万人会、12）マーケティングの順に概要が説明され、全員異議なく、本件は可決承認。

2．平成17年度決算書（案）について
村松財務担当常務理事より、平成17年度の決算について説明され、更に殿水監事より

6月5日に監事3名の立ち会いで監査を行い、業務及び会計処理など適性であったことが報告された。全員異議なく、本件は可決承認。

3．平成18年度第一次補正予算（案）について

村松財務担当常務理事より、平成17年度の決算が確定したことと一部見直しがあったことから、平成18年度第一次補正案について説明がなされ、全員異議なく、本件は可決承認。

4．評議員選出について

村松総務担当常務理事より、平成18年度に役員改選の行われた山梨県、三重県、実業団連盟から推薦された平塚一彦、夏目眞治、原田孝幸の3名について評議員選出可否について提案され、全員異議なく、本件は可決承認。

5．規程（定年規程、審判員規程）改訂について

村松総務担当常務理事より、役員定年規程の第2条の定年年齢について、理事就任時70歳未満、監事は原則として70歳未満に改訂することが提案された。また、審判員規程については、島田審判担当常務理事より、審判規定が改定を重ねることで文言の不統一がありこれを揃え体系化したこと、審判定年について都道府県内大会は該当しないことを明文化したことが説明された。審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認。

6．平成17年度日本協会表彰について

村松総務担当常務理事より、平成17年度日本協会表彰者または団体について、所定期日までに都道府県協会、各連盟及び日本協会から推薦された表彰規程に適応しない1名を除いた14名1団体とすることが示された。なお、前ナショナル監督について推薦検討することが常務理事会で決定されており、専務理事一任で追加することが提案され、全員異議なく、本件は可決承認。

7．ナショナルトレーニングセンターについて

蒲生強化担当常務理事より、国立スポーツ科学センターに併設される2007年12月竣工予定のナショナルトレーニングセンターの施設概要、備品一覧、利用計画（必須75%以上）について説明がされ、全員異議なく、本件は可決承認。

8．2016オリンピック国内立候補都市選定について

市原副会長より、8月30日に行われる2016年オリンピック国内立候補都市の一本化を図る委員会での投票権の説明が行われた。日本協会では渡邊会長、市原副会長、江成常務理事をテクニカルディレクター（TD）に決め、7/9に東京、7/15、16に福岡を市原副会長と江成常務理事で視察に行き、説明を受けた上で機関決定をし8/30の投票は渡邊会長がする。機関決定は常務理事会に一任して戴きたい旨が依頼され、全員異議なく、本件は可決承認。

9．中学種別個人登録料設定について

大西専務理事より、平成18年度に見送りとなっていた中学種別の個人登録料設定について、平成19年度導入に向けて中学生専門委員会（佐々木委員長）と8月のブロック会議で協議し、11月理事会で決定したいと説明があり、全員異議なく、本件は可決承認。

10．その他

1）教職員連盟について

市原副会長より、活動実態のない教職員連盟について審議の提案がされた。

教職員連盟選出の山下評議員より、過去の活動と現状の説明があり、8月の理事会で検討すると回答され、教職員連盟で検討した報告を受けてからの継続審議とした。

報告事項

1．平成18年度日本協会組織図・事務局職務分担について

大西専務理事より、平成18年度の日本協会組織図及び事務局の職務分担について、企画部を置いたことと事務局員の変更について説明がなされた。

2．平成18年度及び平成19年度会議日程案について

兼子事務局長より、平成18年度会議日程及び平成19年度の会議日程粗案について説明がなされた。

3．2006年度強化（ナショナル・蒲生プロジェクト）と自民党・競技スポーツ強化委員会概要について

蒲生強化担当常務理事より、本年度強化スタッフ、年代別のナショナル選手および蒲生（強化関連）プロジェクトについて説明がなされた。ナショナル男子チーム監督として実績のあるイヴィツァ・リマニッチ氏（クロアチア）を起用し、JOC専任コーチに推薦した。

また、蒲生常務理事がスピーカーとしても参加した自民党の競技スポーツ強化委員会の概要メモについて、今後のスポーツ界を示唆するものがあることが紹介された。

4．NTSについて

水上NTS担当参事より、NTSブロックトレーニングについてtoto助成金の激減のため集中開催案もあったが、ブロックからの要望もあり本年度も従来通り9ブロックで行うことが説明された。

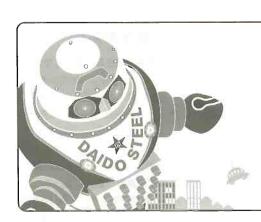
5．平成18年度国内・国際・ブロック大会日程について

江成競技担当常務理事より、本年の国内・国際・ブロック大会について説明があり、新たにジャパンカップを11月に予定していることが報告された。

6．第10回アジア男子ジュニア選手権について

江成競技担当常務理事より、8月下旬に開催の第11回ヒロシマ国際兼第10回アジア男子ジュニア選手権について要項、組織、日程について説明がなされ、都道府県協会においては同大会への協賛が依頼された。

山下副会長より、同時期に開催される世界男子バスケット選手権との競合があることが補足説明され、協力がお願いされた。

大西専務理事より、今後アジア大会はユース種別が増えたことで、日本での大会開催が期待されるので都道府県協会は大会誘致を考

えて欲しい旨依頼された。

7．北京オリンピックアジア予選（豊田市開催）及び北京オリンピック参加資格基準について

江成競技担当常務理事より、2007年北京オリンピック男子アジア予選の要項案と予算案について説明された。蒲生強化担当常務理事より、オリンピックの参加資格基準が北京オリンピックから変更されたことが説明された。

8．国民体育大会について

江成競技担当常務理事より、今後の国体開催、1）第64回新潟国体開催決定、2）第66回山口国体内定、3）第62回秋田国体要項総則、4）第61回兵庫国体参加申込システム、5）参加得点の事務手続き、6）国体保険について説明があった。

西山医事担当参事より、アンチ・ドーピング活動について説明があった。

兼子事務局長より、日体協提案の国体競技会場におけるイベント事業について説明があり、本年度の兵庫国体から小学生の7mスローコンテストを提案したが、実行委員会では人員確保などから実施は無理との回答を得たと報告された。

大西専務理事より、6/10の評議員会で意見が出された国体抽選のシードについて、人員削減がされる大分国体で見直しをすることが説明された。

宮元九州協会理事長より、1）国体登録選手12名については了解したが、大会開始後の選手怪我による補充の可能性についてと、2）第62回秋田国体から公認指導者資格必須に伴い、本年度指導者養成講習会受講者の名簿登載が間に合うのかとの質問がなされた。

1）については、江成競技担当常務理事より、日体協に問い合わせると回答された。

2）については、大西専務より“仮免”のような形での内部処理が可能ではないかと回答された。

9．アンチ・ドーピングについて

西山医事担当参事より、機関誌5月号での掲載内容について、国体だけでなく主要競技会での検査、競技会外検査もJADA方針に基づき行われることが説明され、これに伴う居所情報提出が今後はナショナル選手だけでなく広くトップアスリートにも適用されてゆくことが報告された。

10．審判（全国大会審判員、ヤングレフェリー育成P）について

島田審判担当常務理事より、本年の主要全国大会審判員名簿について、今後若干の変更もあり得ることが説明された。また、ヤングレフェリー育成プロジェクトについての具体的な進め方について説明された。

11．平成18年度第9回ハンドボール研究集会他について

角指導普及担当常務理事より、1）平成18年度第9回ハンドボール研究集会が8/10、11に岡山県・桃太郎アリーナで開催、2）平成18年度実践研究推進校募集、3）18年度事業実施における依頼事項、4）地域活性化助成制度の対象拡大、5）小学生大会の運営基準、小学生大会・交流会での男女混合チーム編成、6）日本協会公認J級指導員養成講習会の開講促進、7）ジュニアのためのガイドブック「エンジョイ!!ハンドボール」発行について説明があった。

岡山県協会理事長の森安理事から、2年間岡山で開催するハンドボール研究集会への参加協力が依頼された。

12．世界スポーツ女性会議くまもと報告について

5/11-14に熊本市で開催された「世界スポーツ女性会議くまもと」に参加した上原女性委員会担当参事より、同会議の概要が報告書に基づき説明された。

市原副会長から、ブライトン宣言に基づき、協会も20%以上の女性役員を登用してゆく必要があり育成もしなければならないと説明された。

13．海外遠征・研修・交流届けについて

村松総務担当常務理事より、最近特に増えてきた海外遠征・研修・交流などを行う際には、届出書を用いて日本協会へ届出・報告することが要請された。

14．選手などの取材に関する協力依頼について

川上広報担当常務理事より、マスコミなどの取材を受ける際には、マスコミ側に取材協力依頼書を提出して貰うよう依頼された。

15．平成18年度日本リーグについて

川上日本リーグ担当常務理事より、平成18年度の行事日程及び活性化プランについて、第31回日本リーグが男子10チームによる1リーグ2回戦総当たり、女子6チーム3回戦総当たりで行うことが説明された。また、来年の第32回大会からは、外国人選手オンコート1名でリーグ戦を行うことが報告された。

市原日本リーグ機構会長より、日本リーグは日本協会の収益事業が出来るところでもあるが、収益事業は課税対象ともなり、今後は日本リーグ機構の法人化を検討していることが報告された。また、日本リーグが参画する日本トップリーグ連携機構では、新人研修会やシンポジウムなどなどを企画していることが報告された。

16．マーケティングについて

木野マーケティング担当常務理事より、協会のコミュニケーションロゴマークの提案や主要大会におけるマーケティングを行うことが説明された。

17．がんばれハンドボール10万人会について

大西専務理事より、5月現在の10万人会情況についてもう少しで10万人に達するので、今後とも会員増への協力が依頼された。

18．その他

1）立花車椅子連盟選出小西参事代理から、第4回日本車椅子ハンドボール競技大会について、協力の依頼がされた。

市原副会長より、車椅子競技大会に健常者が多く参加しているのは、今後の検討課題ではないかと指摘があった。

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」6月入会・継続会員

【北海道】小笠原一朗、小笠原久郎、清水幸彦、小笠原可央子　【茨城】武藤康夫、大谷秀之、菊田政行、遠藤実由喜、大村　久　【群馬】野口英世、酒井　宏、井出英明　【埼玉】遠藤健次　【東京】小笠原泰代、磯崎哲史、佐藤俊行、水止雄一、仁平好則、田島雅史　【神奈川】河野卓也、小林弘樹　【福井】谷口信二　【静岡】細澤　覚　【愛知】禰津行雄　【大阪】下佐古明彦、本田勝亮、山本正明　【鳥取】松原春子、松原理裕　【岡山】村木理英　【広島】福井恵二　【福岡】日野祐一郎　【大分】伊藤道良

【8月の行事予定】

【大会】……………………………………………………

8月2日(水)～7日(月)
第57回全日本高校選手権大会(大阪市・堺市)

8月5日(土)・6日(日)
第33回全国高等専門学校選手権大会(神戸市)

8月9日(水)～11日(金)
第11回ジャパンオープントーナメント・女子(大仙市)

8月9日(水)～12日(土)
第11回ジャパンオープントーナメント・男子(湯沢市)

8月11日(金)～13日(日)
第14回全日本マスターズ大会(豊橋市)

8月18日(金)～20日(日)
第35回全国中学校大会(高松市・香川町)

8月22日(火)～9月1日(金)
第11回ヒロシマ国際大会(広島市)

お　知　ら　せ

ＪＯＣスポーツ賞

選手・指導者が行う強化活動に際し、その環境の整備や強化活動基盤を支え、我が国の国際競技力向上に特に貢献されたことにより、平成18年6月(財)日本オリンピック委員会(JOC)ゴールドプラン企業スポーツプロジェクトから下記団体に感謝状が贈呈されました。

大崎電気工業株式会社
本田技研工業株式会社
オムロン株式会社
ソニーセミコンダクタ九州株式会社
株式会社北國銀行

＊過去にも大同特殊鋼、湧永製薬など数社に贈呈されています。

HAND BALL CONTENTS Aug.

(登録チームの購読料は登録料に含む)

(財)日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』 第四七二号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成十八年七月二十六日印刷 平成十八年八月一日発行
東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表 〇三―三四八一―二三六一
振替 〇〇一二〇―七―一〇二九三
編集兼発行人 大西武三
定価 年間三三〇〇円